

C I S P Rにおける最近の審議状況

5 F小委員会（家庭用電気機器・照明機器などの妨害波に関する規格を策定）

(1) 家庭用電気機器・電動工具等の妨害波規格（CISPR 14-1）の改定

規格全体の章立てが複雑になり、語句が古いものや文意がわかり難くなっているものが多くなっているため、記述を全面的にわかり易く見直す一般的修正と、放射妨害波測定時の配置条件やロボット掃除機の測定条件、また、我が国のエキスパートがリーダーを務めるTFで検討している電圧プローブ測定の代替測定方法となる電流プローブ測定の追加などの技術的修正を統合した第6版のCDVが発行された。

本改定については、WGでの審議から2ndCDに至るまでに中間会議を繰り返し開催し、十分な審議が行われてきた。CDVの投票を経て、ストレーザ会議で各国意見に対する審議を行い、FDIS段階に進む予定。

(2) 家庭用電気機器・電動工具等のイミュニティ規格（CISPR 14-2）の改定

本年2月に第2版が発行された。

(3) 照明機器等の妨害波規格（CISPR 15）の改定

第9版の審議を進めているところであり、現在はCD段階である。同CDでは、規格の構成を抜本的に見直すほか、電流プローブでの測定、放射妨害波許容値の1GHzまでの拡大などの技術的修正に加え、ポートやネットワークといった新しい概念が導入されている。

(4) ワイヤレス電力伝送システムの審議

CISPR14-1に、適用範囲であったIH式調理器を拡張した「誘導式電力伝送機器（IPT）」として、許容値及び測定法を追加する第6版修正1の2ndDCが発行された。我が国は審議開始時から多くの意見を提出しており、同DCにも採用されている。

また、ワイヤレス電力伝送システムのための審議を行うTF-IPTの開催が決まったことから、各国の注目がさらに高まることが予想される。

CISPR ストレーザ会議対処方針

2015年のCISPR会議は、9月21日から10月1日までの11日間にわたり、イタリアのストレーザで開催される。日本からは、総務省、国立研究開発法人情報通信研究機構、各大学、各試験機関、各工業会等から〇名が参加予定である。

総会及び各小委員会等の会議において審議等が行われるが、それらの会議における我が国の対応を以下に記す。

(4) F小委員会

ア 家庭用電気機器・電動工具等の妨害波規格（CISPR 14-1）の改定

規格全体の記述の見直しと、放射妨害波測定時の配置条件や電圧プローブ測定
の代替測定方法の追加などの技術的修正を含む第6版のCDVが発行された。現在は
CDVの投票期間中であり、ストレーザ会議ではCDVに対する各国からの意見につい
て審議を行う予定である。

本改定については、CDV発行に至るまでに約5年にわたり中間会議を繰り返し開
催し、我が国からも多くの意見を提出しており、CDVに反映されているため賛成と
している。同CDVに対しては、我が国からの技術的な意見は少なく、大半がエディ
トリアルな修正意見であるため、必要に応じて我が国の意見を説明する。

イ 照明機器等の妨害波規格（CISPR 15）の改定

第9版の審議がCD段階まで進んでいる。現在は同CDに対する意見提出期間であ
るが、我が国からも多くの意見を提出する予定である。

本規格の内容に対して、基本的には支持する方針であるが、新しく導入された
ポート、ネットワークの定義について明確にするとともに、我が国からの意見が
反映されるよう対処する。

ウ ワイヤレス電力伝送機器の審議

CISPR14-1第6版に、適用範囲であったIH式調理器を拡張した「誘導式電力伝送
機器（IPT）」として、導入されることが決定された。

現在は2nd DCに対する意見提出期間であるが、これまでの審議で我が国からも

意見を積極的に提出し採用されているため、同DCに対する意見はエディトリアルなものに留まる。

本件は新しい技術に対する審議であり、今後も様々な考えが提案されてくるとも予想されることから、必要に応じて我が国の考えを説明し理解を得られるよう対処する。